

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	ナミックス本社再編プロジェクトSTEP4	
建設地	新潟県新潟市北区濁川3993番地	
用途地域	法第22条区域	
建物用途	事務所	
竣工年	2023年1月 予定	
敷地面積	26,987.34 m ²	
建築面積	3,389.56 m ²	
延床面積	8,090.65 m ²	
階数	地上3F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2020年10月6日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	S	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{66.1}{21.2} = 3.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.9		バリアフリー計画	4.0
			維持管理	4.0
			設備の更新性	3.6
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.1		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.5		建物外皮の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	5.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全と創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.5		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準項目を満たしている。
- ・風除室内で自動扉が感知しない空間の長さが1m以上あり、外部に露出する金属部材に溶融亜鉛メッキ等の防錆対策を取っている。
- ・廃棄物スペースを確保しており、維持管理用の機能を確保している。
- ・自動水栓に加えて節水型便器を採用している。
- ・軽量鉄骨の乾式壁工法により、躯体と仕上材を容易に分別可能である。
- ・再利用できるユニット部材としてOAフロアを採用している。

CASBEE 新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ナミックス本社再編プロジェクトSTEP4	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市北区濁川3993番地	構造	S造
用途地域	法第22条区域	平均居住人員	200人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,940時間/年(想定値)
建物用途	事務所、厚生施設	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2020年10月6日
敷地面積	26,987 m ²	作成者	横田 歩
建築面積	3,390 m ²	確認日	2020年10月6日
延床面積	8,091 m ²	確認者	大堀 健



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138)

②建築物の取組み 61% (46)

③上記+②以外の 61%

④上記+ 61%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合 新潟県新潟市に建設される事務所および厚生施設である。敷地は新潟駅から約2kmのところであり、阿賀野川・新井郷川に近接し、周辺には野球場やふれあい公園が複数ある地域である。また今回建設される事務所は、敷地内の他の棟との統一性を持ちながらも、シンボリック性のある外装とすることで地域に根差した施設計画としている。		その他 従業員出入口と来客出入口を別に設け、動線を分離させることで建物利用者に配慮した計画としている。また、3Fには予備スペースがあり、物置や会議室拡張を予想した将来の変容性がある計画としている。
Q1 室内環境 執務室空間の開口部には電動ブラインドを採用し、グレアを制御することで快適な居住空間を図っている。給気口・排気口はそれぞれ位置を離して配置することで、取り入れ外気への配慮を行っている。	Q2 サービス性能 執務室の開口部を大きく計画することで屋外の情報を取り入れやすくし、リフレッシュスペースを確保することにより快適なオフィス空間の向上を図っている。防汚・防錆対策があり維持管理に配慮した設計である。	Q3 室外環境(敷地内) 東側道路は敷地内の緑地と歩道を融合させたりとし、地域環境に配慮した計画としている。また、主要施設・エリアとの間に渡り廊下を設け、構内で人・車輛の動線を極力分けることにより、安全性に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー 断熱性能の高い外皮構成及び建築材を使用するとともに、効率のよい設備機器を導入することで建物の熱負荷を最小限に抑えることを実現している。建物の年間エネルギー消費量の目標値を設定し、運用時の定期的な設備性能検証することで建物の効率的な運用を図っている。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材の分離を容易にするためのLGSの採用、再利用できるユニット部材にOAフロアを採用することで部材の再利用可能性向上に取り組んでいる。機械式継手・デッキスラブを使用し材料使用量の削減を図っている。	LR3 敷地外環境 照明にLEDを使用する等、高効率な設備機器の採用によりCO ₂ の削減を図っている。光源は総合効率の高いものを採用している。駐輪場・駐車場・荷捌き用車両の駐車施設を確保することで、周辺の渋滞緩和に資する出入口計画も採用した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される